

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

令和8年3月12日

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校
学校法人富士学園 静岡県富士見高等学校

令和7年度の重点目標

1. 学力向上のための取り組み
家庭学習を促す取り組みを実施し、その経過の検証をする
2. 進路実現支援のための取り組み
特進：旧帝大を複数含む国公立大学合格者数30名と難関私立大学合格
総合：生徒一人ひとりの希望進路の実現に向け、個別指導を強化し、的確な支援を行うことで、確実な進路達成を目指す
3. 心豊かで健やかな体の育成のための取り組み
日常的な生徒指導の充実で、「朗らか・爽やか・整える」を推進する
4. 地域連携・地域貢献・開かれた学校づくりのための取り組み
生徒の地域貢献の取り組みを共有し、外部に発信する
5. 学校運営の円滑化・教員の資質向上のための取り組み
月曜7限を有効活用し共通理解を図る中で、全教員が同一歩調で教育活動にあたる
6. 生徒募集のための取り組み
募集定員400人（特進コース120人・総合コース280人）の確保

自己評価とそれに対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で記載する。

評価対象	重点目標	学校自己評価		学校関係者評価	
		評価	具体的取り組みと反省、改善策等	評価	意見
学力向上のための取り組み	家庭学習を促す取り組みを実施し、その経過の検証をする	特進	特進コース…「生活の記録」の活用をおこなっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を持ってない生徒への学習指導はいつの時代も難儀。ここは学習という面に留まらず、両者間で複数の交信パイプを持つことか。学習指導だけでは指導も煮詰まり疲労する。フラットな関係構築により意思疎通を図るのも一考かと思う。 ・対話により「気づかせる」ことがより自発的な行動を生むはず。指導から見守りへの移行も自立心を育む手立てとなる。また、小さな変化を見逃さず、後押しするきっかけとすると良いかもしれない。 ・大学進学した卒業生のその後の動向を追跡調査することも本校の学習指導の裏付けとなる要素が発見でき、今後の取り組み検討の参考となるのではないか。 ・総合コースにおいて学習の習慣化を図ろうとするが、担任の見取りが毎日では時間的に厳しいという意見に対して、毎日ではなく週2程度でも生徒の実態は把握できると思われます。実態把握の後、個々への指導を“具体的に指摘すること”ができるが良いが。 ・特進コースでの「生活の記録」は総合コースでも活用できないか。小テストの効果を感じている中、効果の分析を活用について工夫してみてはどうか。また、家庭学習を促す取り組みとして「人に教える前提で学ぶ」を意識しながら、学習することにより効果が上がるのではないのでしょうか。 ・目標を早期に定めて、希望の進路をはっきりさせたい。そこに向かって生徒のやる気が続きやすくなると思う。本人自身がしっかり時間・場所を決めて習慣化したい。 ・三年生からでなく早く将来の目標を立て、行きたい学校や進路を決め、努力させることが必要だと思う。
		総合	総合コース…各定期テストの期間に勉強時間など家庭での生活のようすを把握するようにしている。また、スタディサプリを用い、その動画教材の家庭学習での視聴を呼び掛けている。 教員ごとに、個別指導などを実施し、適切な課題を与えて、家庭で学習するよう呼び掛けている。 毎週の漢字小テストや英語のテスト等、スモールステップの見取りの実施を継続している。 特進コースでは「生活の記録」の活用により、平均30分以上はできている。また、それに関する話題で、生徒とのコミュニケーションが取れるなどの利点もある。 総合コースでは学習の習慣化が困難。 また担任の見取りが毎日だと、時間的にかなり厳しい。スタサプをまじめに取り組んでいる生徒には成績等にも効果が見られているが、実際に行っている生徒ばかりではない。やらない生徒が多数派。 総合コースの生徒全員の家庭学習習慣の向上・定着については、なかなか効果が上がる手だてが見つからない。	3人 B 4人	

					<ul style="list-style-type: none"> 各コース共に取組みを実践し、改善点を明確に出来ていると思います。 特進コースで成果が出ている。 総合コースの生徒は進路への目標が明確になっていないように感じた。目標への具体的なビジョンがあれば、勉強する気になるのではないか。(時間の長さより、やる気重視で)
進路実現のための取り組み	<p>特進：旧帝大を複数含む国公立大学合格者数30名と難関私立大学合格</p> <p>総合：生徒一人ひとりの希望進路の実現に向け、個別指導を強化し、的確な支援を行うことで、確実な進路達成を目指す</p>	<p>特進 B</p> <p>総合 B</p>	<p>特進コース、総合コースともに、進路指導は目標達成がほぼできているように見受けられる。</p> <p>国公立は行きたいが近場の静大がいいという感じが強い。進路の時間でもっと多様な進路選択の情報を提供したい。</p> <p>面接の個別指導を早くから始めたが、成果はあったと思う。</p> <p>総合コースも、学級担任のかかわり方が、かなり結果を左右する。そのためには、日常的な進路についての会話が必要。</p> <p>面接指導を充実させるには、管理職や特命講師の力を活用することが効果的である。</p> <p>学期に1回、進路指導部とは別に学年として「進路意識調査」を実施し、教員の進路指導に活用できた。</p> <p>個別指導を毎朝、および放課後週2回以上おこなってきた。</p> <p>県内国公立合格者増加は、今後の本校の進む方向性の一つではないかと考える。</p> <p>特進においても、進路希望の多様化が見られ、指導が難しく感じる。学校が考える こうあるべき が、生徒や保護者の希望する こうしたい、こうありたい と一致しないケースがみられる。生徒や保護者との情報交換・意思疎通にどれだけ多くの時間を割けるかが、進路指導のポイントである。</p>	<p>A 4人</p> <p>B 3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校が目指した目標を達成できたことは嬉しい。先生方の細やかな指導の成果と感じる。一方で、将来的に身に着けたい自立心や自主性を本校でどのように育てているか。この点に個人的関心が向いている。 「かわりかた」とは？ どう多様化しているかここでは読み取れないが、私学として生徒さんやその家庭を顧客として捉えれば、学校として、また、教員として、その考え方に対応していくのは重要であろう。 SNS 上、部活動に比べて、学業・特進クラス分野の発信が少ない。手厚い指導は好評であるが、実際の取り組みや、どう育てるのが具体的に伝わってこない。いわゆる特進クラスについての露出度をもっと上げることが必要ではないか。 HP フロントにも謳っている神奈川大学との提携も戦術としてその「提携理念」をうまく発信したいものである。 先生方の努力に感謝します。 令和8年度より高校無償化が実施されます。学校の特徴を最大限発揮し、学校評価の PR を拡散してはどうか。 本校は生徒一人ひとりの要望や不安をきちんと受け止めて、満足度を高めています。口コミや紹介が生まれると、期待できます。これからも強みや持ち味を大いにアピールして欲しい。 先生方の進路指導のおかげで、生徒が目標とする進路への具現化が可能となっていると思います。生徒一人一人が【可能思考】を持っているような指導を頂ければ幸いです。 生徒が保護者の希望を考慮して、県内の国公立に強い学校に特化するのも良いと思う。(県外国公立や有名私立も大事だが、県内国公立は需要があると感じる) SNS 等で、入学した時の成績から進学決定までの流れを発信するのも良いかも。
心豊かで健やかな	<p>日常的な生徒指導の充実で、「朗らか・爽やか・整える」を推進する</p>	C	<p>スローガンを立てたが、まだ一部の教職員にしか意識されていない。必然的に、生徒の中にはほとんど浸透していない。朗らかにあいさつができる生徒が、はたして一割いるかどうか。最近ではあいさつの際に声を出せる生徒が非常に少ないし、教職員の中でもはっきり声を大きく出してあいさつができない状況がある。生徒にあいさつ、礼儀を指導する前に、教職員自らが己のあいさつや礼儀を見直す必要がある。</p> <p>酷暑、感染症等の関係で、生徒が一堂に会せる場がなかなか設定できず、校歌はほとんど歌えず、残念であった。</p> <p>生徒指導部がよびかけ、教員全員で一年間行ってきた朝の指導は、成果は上がっていると思われる。</p> <p>「建学の精神」をもっと前面に押し出し、中学校への生</p>	<p>A 3人</p> <p>B 2人</p> <p>C 2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> スローガンは目指す姿をイメージし、全員でその達成に向け突き進むための合言葉。その意義づけは対話や議論を経たうえで芽生えるもの。報告から伺えることは十分な議論がなされてない様子。狙いを徹底的に浸透するすべは、そこにはないだろうか。 一方的なアプローチとなっていないことを願う。末端まで目指すところが正しく伝わっていないのであろう。従い、そこに管理職や指導立場にある方々が、若い世代にどう歩み寄り、共感し、促し、そして、見守るかが必要となるのではないか。 「建学の精神」を、あらゆる場面で露出度を

<p>体の育成のための取り組み</p>			<p>徒募集の折り、生徒募集の際の重点項目等の中、面接試験等で大切にしたいこと等でも、アピールできたらいいと考える。</p>		<p>高めることが重要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導については、共通理解として同一歩調で進めているようですが、先生方自らが厳しい見方をされています。同一歩調から一歩進めて“同一行動”を考えたいです。 礼節を重んじる方針は重要な事と存じますが、保護者が地域活動に参加することが否定的な方が多くなり、地域会合においても反対意見が強くなるなど、一部には受け入れがたいクレームもあることも現状であります。子は親の背中を見て育つと言いますが、家庭教育においても大変苦慮していると思います。 相手を思いやる態度は基本的な心得と思います。信頼関係を深めるために礼節を重んじる方針は大切だと思います。機会あるごと、生徒に自然な方法で伝えていきたい。 卒業式で感じるのですが、名前を呼ばれて、返事と礼ができる子は三年間の学校生活も充実し先生や親への感謝ができる生徒だと思います。残念ながら、それができない子も少しいます。返事一つですが、その生徒への評価が変わります。来年は全員の返事と礼を期待します。校歌もしっかり歌って欲しい。 駄目な部分をしっかりと理解しているところが良いと思います。改善目標を立てて進めば、結果はあとから必ずついて来るのではないかと思います。 生徒だけでなく、教職員もきちんとした挨拶ができていないとのことですが、これは教職員にも気持ちの余裕がないのかなと感じる。保護者のクレーム対応などが教員個人の対応だけでなく、専門の担当と共有するなどして負担を分散したら、良いのではないか。(毅然とした対応も大切だと思う)
<p>地域連携・地域貢献・開かれた学校づくりのため</p>	<p>生徒の地域貢献の取り組みを共有し、外部に発信する</p>	<p>部活 A 全体 C</p>	<p>コミュニティ研究会の取り組みは、地域における本校生徒のイメージを大きく向上させる効果を上げている。今年の子バレー部の春高バレー大会出場を祝い応援する旗を富士市商店街に飾っていただけしたのは、顧問教師の日頃からの取り組みとコミ研の生徒の駅北商店街への貢献の賜物である。</p> <p>学校全体として(教職員の意識も含む)地域と連携し、地域に貢献するという体制はあまり感じられない。</p> <p>コミ研、吹奏楽部、音楽部、箏曲部、茶道部、華道部など、主に文化部の生徒が、近隣の小学校や商店街、企業等のイベントに参加・協力できているし、教育広報部がSNSでその取り組みを積極的に発信している。</p> <p>生徒の通学範囲が非常に広く、自分の地元という意識が弱いかもしれないが、「建学の精神」に立ち返り、地域連携・地域貢献の意義と必要性を伝える場が必要だと思われる。</p>	<p>A 5人 B 2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ研究会の活躍は報告通りだと思う。そこに学校側がどう呼応するかが見えてこない。ここ数年の研究会の取り組みは開かれた学校創りを牽引していると考え。みすみすその期を学校側が逃してしまうのは惜しい。 100周年を控え、学校の将来ビジョンの明確化とその具現化が急務である中、このことはその一つとなり得る。地元と真摯に連携し、地元コミュニティへ、将来にわたり貢献しようとする本気度を現す絶好の機会にもなる。 教員は生徒に向き合うことが本業で、本質的に「内向き志向」。しかし、教員ひとりひとりが「外向き志向」を身に着けたなら、今、学校の行き詰り感を解決できる一つになり得ると考える。また、この分野においても横断的なメンバーによるワーキング・グループ活動が実施されるなら、対話や討論通して、職員関係を活性化させ、当事者意識を育むものとなっていくはず。 バレー部はもちろん、他の部活も活躍してくれると思います。 地域連携、地域貢献に積極的に取組まれてい

の 取 組 み				<p>ると思います。富士市全域に活動が知れるようになれば、大いに評価できると思います。また、近隣自治体にも連携できれば良いのでは。市内奉仕団体クラブとの繋がりを持つことも、良い経験になるのではないのでしょうか。富士ロータリークラブとの関係、交流なども考えられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者から子供までと、様々な世代と交流でき、今まで見えていなかった社会の課題に気付くこともあると思う。生徒の参加が広がりその役割が地域に期待されている。 ・コミュニティ研究会は地域行事に積極的に参加し、今年は全国高文祭にも出場し、活躍が著しく富士見高校の名を全国に広めてくれました。 ・いろいろな地区の方から、富士見高校の地域貢献について良い話を聞くことが多いです。これからも頑張ってもらいたいと思います。 ・コミュニティ研究会の活動は素晴らしいと思うので、今後も引き続き頑張ってもらいたい。学校全体として地域貢献を考えるなら、生徒に課題としてどうしたらよいか考えさせる。→ 実際にやってみて文化祭などで成果を発表するのはどうだろうか。(クラス、部活などグループ分けのパターンはいろいろ考えられる。)
学 校 運 営 の 円 滑 化 ・ 教 員 の 質 向 上 の た め の 取 組 み	月曜7限を有効活用し共通理解を図る中で、全教員が同一步調で教育活動にあたる	D	<p>月曜7限の活用を訴えていたが、教職員の中に学校がおかれている厳しい現状への危機感や打開策を主体的に考えようとする意識がもう一つ高まっておらず、有効活用ができたとは言い難い。</p> <p>服装指導、電話対応、職員室の美化など、見て見ぬふりの教員が存在する。</p> <p>生徒に大切なことを伝える朝のショートホームルーム等での伝え方も、通り一遍になっているクラスがあるように思う。</p> <p>来年度は、総合コースと特進コースを差別化し、それぞれが生徒にとって魅力のある改革を本気で進めなければならない瀬戸際にきていると思われる。その厳しい現状に対する把握と、学校改革の必要性を自分事としてとらえる認識の醸成が、本校の立て直しの第一段階として必要である。</p> <p>管理職だけでなく、部長職にある教員の学校改革に対する強い使命感と行動力が求められる。</p>	<p>A 3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜7限が何なのか分からないが、その時間帯の活用が教員研修として奨励されていることか？ <p>B 3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員(若手)に危機感がないのは、何か守られている安心感からか？ <p>C 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識がなく受けとめることが出来ないのは、自身内に「何たるか」が芽生えてないからだろう。座談会形態による研修、研究会の実施が望まれる。そのようなフラットな構成員によるプロジェクトやワーキング・グループ活動もその一助けとなると考える。当事者意識を育むと同時に、新しい発想が生まれる可能性も多いにある。 ・魅力ある改革とは、総花的にならず的を絞り徹底して取り組むことで成せることかと。「建学の精神」又は「本校の理念」を追求することを旗印に、全教職員が、何らかの形で積極的に議論、討論でき、共鳴できる場の創設を願う。 ・「全教員が同一步調」とあるが、ここでも「同一步調」で取り組みたい。 ・教職員と生徒・保護者との乖離からも、高校教員の働き方改革を進める中、時間外勤務が常態化している。教職員の精神疾患も心配されるが、運営組織の改善が急務であると思う。他校にはない特色づくりを目指すとともに、オンリー1を次年度の「学力が伸びる学校」を確立してください。 ・月曜7限を知識の習得ではなく、身近な課題をテーマにした探求の時間に活用できないか。コミュニケーション能力を高めたり、将来を考えるきっかけにもなると思う。

					<ul style="list-style-type: none"> 先生方には、常に生徒・学校を良くしようと するご努力があり、前向きに考えて下さり、 感謝しています。 総合コースと特進コースの差別化は必要だ と思うので、まずは学校としての方向性を固 めて欲しい。月並みだが、その為には、教員 間のコミュニケーションをしっかりと取り、気 になることなどを、お互いに共有して、風通 しの良い雰囲気にして欲しい。
生徒募集のための取り組み	募集定員400人 (特進コース12 0人・総合コー ス280人)の確 保	取り 組み C 結果 D	<p>教育広報部を中心に、積極的に広報活動は行われていた。前年度まで以上に、新しい取り組みも行われた。しかし、結果が出ないということは、学校の取り組みや広報の方法・内容に、中学生や保護者が求めているものとのずれがある、足りていないということになる。</p> <p>総合コースの多くの生徒が「学校を楽しい」と感じるようにするための、抜本的な改革をしたい。「今までは…」といった変化を敬遠する考え方だとか、「指導が大変になるから…」といった消極的な考え方ではなく、新しい1世紀を創る意識で、取り組むようにしたい。</p>	A 1人 B 4人 C 1人 D 1人	<ul style="list-style-type: none"> どこに重点を置いて募集活動が行われていたのか？結果がすべてであるが、その効果がなかったということか。 取り組みに対し募集の7割。徹底した原因追究が急務。情報収集と整理、討議と分析を通じて、改革案の提示を願う。 また、本校の意図や想いが中学側に伝わっていないとするならば、好ましい人間関係ができてない？相手学年は毎年変わる。引き継がれる関係をどう築き維持していくか。親密な人間関係のないところに情報の行き来はないと考える。 例年行われていると想像するが、ライバル校についての調査・研究・分析から、どのような事柄が伝わって来るか、その把握が急務。 学校の真摯な取り組みを一層広報したい。 生徒や保護者が「富士見高校」に何を求めているのかを正確に把握する方策を！ 少子化に伴う現状の中、生徒獲得に大変苦慮されていることと存じます。 学校説明会・体験入学・部活動見学等に積極的な参加を呼び掛けて、実際に学校を見て感じて欲しい。選ばれる富士見高校を目指して、魅力を最大限に発信していきたい。 学校説明会や部活動見学会・体験入学等の回数を増やし、また、中学校や塾に根気強く足を運び、富士見高校の魅力を発信し続けることだと思う。 改善点が多いのは、向上するうえで仕方がないことだと思いますが、これをマイナスに取るのではなく、プラスにする方法を考えて行きたい。 生徒本人はSNS (Instagram、TikTok等) で情報を得ているので、実際に通っている生徒たちが SNS で「部活の裏側や行事の様子など」を発信するのはどうか。 可能ならトイレはキレイにしたい。 バレー部以外の部活の様子がわかりづらいので、その辺りのアピールをする。 特進でも、推薦に力を入れるなど、保護者にもわかりやすくアピールする。
評価委員その他	<ul style="list-style-type: none"> 各評価委員が、毎年、それぞれの意見や感想をお伝えしてきている。それらの視点が、学校経営や教育活動の中にどう活かされているのか報告をいただけたら幸いである。これは、各評価委員の動機づけともなり、今後の取り組みにも良好な影響をあたえることになると考える。 教員集団として、若い先生方の育成、教育が急務であると報告から理解することができた。いつの時代にもあることだと思う。対応策は必ずあるので、粘り強く探り続けて欲しい。 教職員のまとまりを欠くという反省が見られますが、実力のある素晴らしい先生方も多くいらっしゃるのので、全ての教職員が危機感を持って一致団結して（同一行動を願います）行けば、素晴らしい学校になると思います。 富士・富士宮圏域の高校は2033年度までに現状の県立・市立の9校を5校に再編・統合する計画が進められている。高校入学者数の減少による規模の適正化が図られております。高校無償化により生徒が学校を選び、学ぶ学校を希望する傾向が顕在化する。特色ある改善が生徒に魅力と希望を 				

意見	<p>持たせるアイテムとなり、総合的選択になりうるのではないのでしょうか。取り組みに期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者による学校評価の満足度が高かったことを受け、効果的な生徒募集につなげたい。 ・授業料の無償化が実現し、公立校の定員割れが続く中、私立校への希望者が増えることを願います。 ・今は何でも、ハラスメント扱いされ先生方も大変ですが、学校や生活のために、どうぞよろしくお願いいたします。
----	--

今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）

今回の学校関係者評価委員会においては、例年以上に具体的・建設的なご意見・ご指摘をいただき、学校経営・運営を推進していく上での大きな力をいただいた。

学力向上・進路実現については、大学進学した卒業生のその後の動向を追跡調査し、それを効果的に啓発して、在校生のモチベーションの向上や、本校への入学志願者の増加につながるようにさせたい。また「人に教えることを前提で学ぶと学習意欲が向上すること」を意識しながら、授業構想をすることを、教員研修の中でも広めていきたい。

学校からの情報発信については、「部活動に比べて、学業・特進クラス分野の発信が少ない。」「手厚い指導は好評であるが、実際の取り組みや、どう育てるのが具体的に伝わってこない。」「特進クラスについての露出度をもっと上げることが必要ではないか。」などのご意見を、今年度、教育広報部では強く意識し、すでに活動を展開している。学校のパンフレット、見学会・説明会等の講話でも、それらをわかりやすく伝えていきたい。

SNS等で、入学した時の成績から進学決定までの流れを発信したり、神奈川大学との提携を、その「提携理念」に踏み込んでうまく発信していきたいと考えている。

学校運営の円滑化については、管理職や指導的立場にある者が、若い世代にどう歩み寄り、共感し、促し、そして、見守るかが必要だと思われる。今年度は、各部の部長や各学年の主任等に働きかけ、若手からの意見の収集や、その意見の活用に心がけている。また、「建学の精神」を、あらゆる場面でアピールし、高めることの価値を再確認し、中学生への生徒募集も含めた生徒への啓発にも「建学の精神」とその意義をアピールするようにしている。また、「朗らか・爽やか・整える」のスローガンの下、学校生活の中であいさつや返事を意識させること、校歌をしっかりと歌えること、教室等の整理整頓や清掃にしっかり取り組めることを、いろいろな場面で呼びかけ、行動で示せるように働きかけをしている。

最後の、本校として今まで力を入れてこなかったライバル校についての調査・研究・分析などにも、意識を向けていきたいと考えている。